

<教科等横断型授業>		外国語（コミュニケーション英語Ⅲ）×家庭（家庭基礎） 学習指導案			
日時	令和4年 5月30日（月）第2時限		教室	111教室	
本時の主題		コカ・コーラとペプシの覇権争いの歴史と健康面の課題			
使用教科書	外国語 （コミュニケーション英語Ⅲ）		Cutting Edge 2022 Blue（エミル出版）		
	家庭（家庭基礎）		新家庭基礎（教育図書）		
学習単元	外国語 （コミュニケーション英語Ⅲ）		Chapter 6 「コーク VS ペプシ」		
	家庭（家庭基礎）		3食品を知ろう ○嗜好食品		
実社会での課題		<p>コカ・コーラとペプシが覇権争いを繰り広げるアメリカは炭酸飲料の世界シェア7割を占め、コカ・コーラは販売量1位である。これらの清涼飲料水に含まれる大量の砂糖は肥満の原因となり、生活習慣病の蔓延や医療費の増大につながるという問題をはらんでいる。</p> <p>一方、我が国では健康志向が高く、「糖分ゼロ」や「カロリーゼロ」の清涼飲料水を多く見かけるが、日本人の死因の多くはよくない生活習慣の積み重ねにより発症する生活習慣病と関係があるといわれている。</p>		関連項目	
				Science	○
				Technology	
				Engineering	
				Liberal Arts	○
				Mathematics	
SDG	3				
生徒に身に付けさせたい資質・能力		英文を通じて、コカ・コーラとペプシのシェア争いの歴史を理解させ、清涼飲料水の適切な摂取のありかたを考え、健康に配慮した生活を実践しようとする力を身に付けさせる。			
指 導 過 程	学習活動		時間	指導上の留意事項	評価方法・資料等
	導 入	1 本時の目標を把握する。 2 本時の学習の歴史的背景について理解する。	10	・スキヤニングを用いて、コカ・コーラとペプシのシェアの変化を読み取らせる。	・ロイロノート
	導 展	1 コカ・コーラとペプシのブラインドテイスティングを行う。	10	・生徒自身に試飲を通して、本文中の好みの割合と比較させる。	・飲料水（コカ・コーラとペプシ）
		2 コカ・コーラとペプシの原材料と栄養成分を見て、過剰摂取が問題視されている成分を確認する。 ①砂糖 ②カフェイン ③カラメル色素	10	・両者の原材料と栄養成分はほぼ同じであり、500mlに含まれている砂糖量を可視化することで、1日のめやす量と比較し、摂取しすぎると、生活習慣病につながることを理解させる。	・ロイロノート ・教科書（新家庭基礎）p.90
	開 程	3 コカ・コーラとペプシのシェア争いの歴史を理解する。	10	・スキミングを用いて、大意を読み取りとらせる。	・ロイロノート ・問題集（コミュニケーション英語Ⅲ）p.14-15
		4 現実と人間の考えの複雑さを理解する。	5	・味で勝っているペプシよりもコカ・コーラのシェアが大きいという不思議な現象について考えさせる。	【評価方法】 ○スキミング ○ロイロノートへの提出課題
整 理	1 本時のまとめをする。 2 課題を提出する。	5	・ロイロノートの提出箱に課題を提出させる。	・ロイロノート	
備考	3年普通科 文型 42名（男子14名 女子28名）				